



浜松アーツ&クリエイションでは、平成31年度より「浜松市創造都市推進事業補助金」の事務局として、採択された方々の取り組みが発展し、継続できるよう伴走支援を行っております。令和6年度は16事業が採択され、事業が実施されています。本誌では、4つの事業の取り組みをご紹介します。（その他の採択事業に関する報告は浜松アーツ&クリエイションHPより3月下旬に公開予定です。）

浜松A&C



01 ホスピタルアート×ヘルスケアアート×ハママツ [HA×HA×HA]

私たちのコロナ禍を伝えよう。
ホスピタルアート×ヘルスケアアート×ハママツ

医療職や介護職の方とコロナ禍の思いを共有

「ホスピタルアート」「ヘルスケアアート」と呼ばれる活動は、単にアートを病院に取り入れるという活動だけでなく事例は多岐に渡ります。施設に関わる個々の人たちの思いを聞き取り、個々に寄り添い、共有し、環境改善や何らかの形で表現する、ウェルビーイングを目指して活動しています。今回は、医療関係者から募集したエピソードを学生がイラストで表現し、イベント会場に展示しました。また、甘いものを楽しみながらコロナ禍の思いをトークイベントで共有しました。「ホスピタルアート」「ヘルスケアアート」の必要性と理解を広げ、医療関係者とつながる機会となりました。



事業を終えて(採択者より)

「コロナ禍」はどんな思いだったか、いま振り返り世代を超えて、人生の先輩から若い年代の人まで、また医療や介護に関わる方と思いを共有しようというイベントでした。イベントの集客に課題がありましたが、来場者からは「遠い昔のように思える程日常が戻りましたが、確かにこの時期があったことを思い出しました。」「コロナが過ぎ去って忘れてしまったことがたくさんあることに気づきました。」といった感想をいただき、地域の人たちには「コロナ禍の振り返りやその後の知識」に関心があることがわかりました。今後は、団体名の通りの目標「浜松市を中心にホスピタルアートやヘルスケアアートを実施」できるよう活動していきます。私たちの活動や振り返りをイベント用サイトで公開しますので、ご覧いただければ幸いです。



A&C担当スタッフより

コロナ禍を経験した学生によるアート作品や医療従事者から寄せられた当時のエピソードに、自身の想いを重ねて届けることを試みた事業です。参加型ワークショップも開催されるなど、アートをキャンパスに相手の気持ちを知り、考える機会となりました。また、事業を通じて団体の取り組みを知っていただく機会にもなり、市内医療関係機関とのつながりも生まれました。

02 佐鳴湖パークDAY実行委員会 佐鳴湖パークDAY vol.2

NEXT Stage

佐鳴湖公園にてマルシェやワークショップを開催することで、佐鳴湖周辺の地域を中心とした多くの方々に佐鳴湖公園や佐鳴湖エリアの魅力、公園の使い方について知っていただき、最終的には地域の定住人口増加を目指した事業です。事業を通じて、ワークショップに参加したアーティスト、地元の高校生ボランティア、地域住民同士などの交流の機会となりました。



事業を終えて(採択者より)

10月は雨の日が多い中、今年度も佐鳴湖パークDAYを無事開催することができました。晴天に恵まれての開催ができ、大盛況となりました。昨年よりも規模が1.5倍となりましたが、ワークショップだけではなくマーケットからも地域の魅力を知る機会につながったと感じます。ボランティアさんの参画も行い、地元中高生がまちづくりを考える機会にもなりました。本質的に望まれたまちづくりを行う為にも、若者との協働は必須と感じます。今後はこの運営を次世代に託し、この人流を定住にステップアップできるような仕組み作りに取り組んでいきます。課題は一つずつ解決してきているため、マニュアル化して他地域でも運用できるように取り組んでいきます。

A&C担当スタッフより

事業がはじまる前に実施した、本補助金のキックオフミーティングでの出会いをきっかけに、他の採択者がワークショップを出展し、アーティスト同士の交流につながった事業です。開催当日はワークショップの参加者同士の交流も見られ、マーケットも親子連れからお年寄りまで老若男女問わず賑わっていました。開店直後から行列ができるなど、普段の佐鳴湖公園とは雰囲気が異なりました。このような、公園を活用した市民主導の取り組みが他地域にも波及し、移住者の定住促進の手法の一つとして展開されることに期待します。

03 一般社団法人浜松創造都市協議会 アートをミル・キク・ハナス プロジェクト

アートによる多様な人々との対話の場

浜松周辺に在住する外国にルーツをもつ市民の中で、言語や文化による障壁により表現活動への参加が難しいと感じる人々に向けたアートアニメーションワークショップと、社会や歴史をとりまく様々なルーツやアイデンティティをもつ映像作家の作品上映を行いました。プロジェクトを通じて、自分らしさを認識し、他者の作品を鑑賞することで自らも多文化社会の一員であることを意識するきっかけをつくることを目指した事業です。



事業を終えて(採択者より)

浜松における「多文化社会」を考えるための文化芸術事業の検証として、言語に頼らない表現を体験し、またプロジェクト自体がまちの多文化の様子の記録になるように、表現方法であり記録装置でもある映像をテーマに、ワークショップと作品上映会を行いました。アニメーションワークショップでは、バックグラウンドが異なる参加者同士のチームで制作してもらったパートがあり、作品制作を通じて自然にコミュニケーションをとる姿が印象的でした。ワークショップの様子を撮影して記録映像をつくり、事業後半の映像作品上映会でお披露目することで、事業の成果を広く発信することもできました。

A&C担当スタッフより

外国にルーツをもつ市民が多いということは、浜松の特徴の一つです。今回の事業を通して、浜松で国際交流と地域の多文化共生づくりを進めている、浜松国際交流協会(HICE)をはじめとする地域のコミュニティとのつながりが生まれていました。ワークショップでは、自分が描いたパラパラアニメーションにグループで音をつけあい、表現の面白さを体験しました。発表会で一体化した参加者の様子が印象的でした。今後も、多文化が共生する浜松の文化芸術の向上につながる事業展開に期待します。

04 青島 貴和子 0歳とパパママのリフレッシュコンサート ~癒しのスティールパン~

0歳大歓迎!スティールパンコンサート

出産・子育て中のパパとママを対象としたコンサートを実施しました。自身が子育て中だからこそこの視点で、同じ境遇の方にリフレッシュしていただくために『子どもが泣いてもいい、一緒に寝てもいい』をコンセプトとしたコンサートを実施しました。音楽の力が明日への活力となることを目指した事業です。



事業を終えて(採択者より)

会場の中村家住宅がとても居心地が良く、赤ちゃんパパママを中心に、訪れた方がゆっくりと時を過ごす事ができました。畳のスペースだけでなく、時にはお庭からも、思い思いにコンサートを楽しんでいただけました。スティールパンの魅力を最大限に届けられるラテン音楽も、このコンサートの見応えにつながったと、お客様のお声やアンケートから感じる事ができました。今回の経験をもとに、事業の発展に努めます。

A&C担当スタッフより

まず特筆することは、本事業のコンセプトに、会場である「重要文化財中村家住宅」がベストマッチしていたことです。会場を満席とするほどに集まった親子、自由に遊ぶ乳児や幼児、音楽が鳴ると不思議と泣き止む0歳児。ここが、もともとは人が生活し、子育てされていた場所であり、親子の声に「家」も喜んでいるような感覚を覚えました。親子がリラックスできる場所や機会が求められていることを再認識させていただいた事業でした。コンサートと並行して、日常の中でサロニック的に実施されていく展開にも期待します。

cirque・quete [雑貨をかう、だけじゃない雑貨店]

約2年半前に始まった雑貨店cirque・quete(シルクケット)。
シルクケットは【サーカス】がテーマの雑貨店です。慌ただしい日々
の隙間の部分を少しでも豊かにしたいという想いで、ここでしか
得られない特別な体験を主に『雑貨』という小さな媒体を通して
提供しています。

実店舗というリアルな場所を作ってみると、様々な方が来てそこ
からお客様同士もつながって、新しいことが生まれて…こんな風
に人と人の広がりや街を明るくしていくのだとひしひしと感じます。
同時に、浜松には自分の内側に素敵な才能を秘めている方が大勢
いて、でもそれを発表する場所や機会がないと感じている方々が
いるということを知りました。

「何かやってみたい」という想いのある隠れた表現者さんが実際に
踏み出す為に、私がお手伝いできることを日々考えています。

シルクケットで1つやりたいことが叶ったとき、日々の景色がより
輝いて見えて、次は何しようって未来を見て、ワクワクして過ごせる
と思うのです。そしてここに来たお客様も一緒にワクワクして、面白
い連鎖が起こってほしい。そんな想いから、雑貨店内の
スペースの貸出やイベントの企画、提案をしています。

モノを買う人にとっても、コトを表現したい人にとっても、ここは
サーカスのように、次から次へとワクワクが起きる場所にしたい。
まるで宝物のような、其々にとってのお気に入りのモノやコトを見
つけてほしい。

それが『雑貨をかう、だけじゃない』雑貨店です。

あなたも一度、このサーカスのカーテンを開けて足を踏み入れて
みてはいかがでしょうか。



cirque・quete(シルクケット)

店主 河崎真梨子

PROFILE

浜松市で生まれ、御前崎市で育つ。アンティークなどの古い物、作家さんの一点物が好き。
東京の短大を卒業後、アパレルショップや雑貨店にて販売・バイヤー等を経験。

2022年3月中央区紺屋町にて、サーカスをテーマにした雑貨店「cirque・quete(シルク
ケット)」をオープン。《雑貨をかう、だけじゃない雑貨店》と謳い、自分と皆が自由に
表現できる場所としてワークショップやイベント等、ここでしか出会えないモノやコト
を提案する。

今号の表紙

HIKARU profile



1989年生まれ、浜松市在住。

2021年よりアクリル絵の具を用いて活動を開始。

愛やつながりをテーマに、キャラクター「SHINAMON」を中心とした作品を制作。

日常に温かさやユーモアを届けることを追求し、浜松市を中心に個展を開催している。



hikaru_01246

制作者

HIKARU
(アーティスト)

表紙テーマ

LIFE

作品制作にあたって

いつも作品を完成させるときに黒目を描くことは、精気を宿すような、とても好きな瞬間でもあるので
すが、白い目の女の子を描いたときは、あまり元気ではないときでした。

生きていく中で、悲しい思いをすることも日常では避けられないことです。

幸せな色と相まって、黒目がないという二面性を表しています。